第１回　泉佐野丘陵地緑地 運営会議

日時：2012 年 5 月 28 日（月）14:00～17:00
場所：泉佐野丘陵緑地工区会議室及び泉佐野丘陵緑地

出席委員（敬称略）
大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　増田昇（委員長）
大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　下村泰彦（副委員長）
元大阪府立大学大学院　教授　前中久行
大阪市立大学大学院環境都市工学科准教授　嘉名光市
大阪ガス株式会社　エネルギー・文化研究所（CEL）特任研究員　弘本由香里
うみべの森を育てる会　代表　西台幸子
泉佐野丘陵緑地パーククラブ　会長　杉本和彦
泉佐野丘陵緑地パーククラブ　副会長　佐々木紫朗
大輪会　戸國剛（オブザーバー）

欠席委員
泉佐野市都市整備部　部長　松下義彦

◆傍聴者
２名

◆次第
１．集合　　14:00～
２．主旨説明　　14:10 出発
　・所長あいさつ及び行程説明
３．現地確認　　14:30～
　・各区域における課題確認について

（郷の館にて）　　15:45～
報告案件
　１．平成２４年度運営会議　開催計画について
協議案件　２件
　１．現場をふまえての課題について（意見交換）
　２．対外視察について（有馬富士公園）
報告案件　5 件　16:15～
　１．平成 23 年度大輪会支援について
　２．4 期パークレンジャー養成講座の募集結果について

３．第 1～4 回パークレンジャー養成講座について
４．パーククラブ活動報告（３～５月）、総会報告（会則の改正）について
５．地域との連携について（イオン日根野チアーズクラブ）

４．閉会　　17:00

〇委員長、副委員長の選定について
・事務局より、委員長を昨年度に引き続き増田先生にお願いしたいとの提案があり、全員異議無く承認された。
・事務局より、副委員長は増田委員長に選定をお願いしたいとの提案があった。増田委員長よりパークレンジャーと親密に交流を持たれている下村先生に副委員長をお願いしたいと提案され、全員異議なく承認された。

◆報告案件
＜報告1：平成 24年度運営会議　開催計画について＞
増田委員長
・事業戦略については、具体的に討議内容を整理したい。他団体の受入れ、開園に向けてのルール作りなど。漠然とした事業戦略ではなく、具体的に議論できる状況をつくってほしい。

事務局
・次回以降に項目をあげて、委員の方々に議論いただきたい。

増田委員長
・１項目につき、1 回の運営会議だけでは議論しつくせない。2～3 回と何度が検討を行いたい。
・ゾーニングについては、現場で「ここに関しては竹林から樹種転換したい」とか、「農作業したい」とか、現場で話しをしながら検討する機会を設けたい。

事務局
・臨機応変に対応しながら現地に来る機会を設けたい。

前中委員
・現地に来る機会が増えることはよいことだ。あらかじめ、ゾーニングの案を検討し、現地で確認するのがいい

増田委員長
・公園内で行うイベントは、終了後に必ず内容を整理してほしい。以前、他の公園でイベントの結果を整理するときに用いるカードをつくった。そのカードは工区事務所に貸しているので、参考にしてほしい。これまでのイベント内容をもとにオープン時にプログラムを実施する際にどのような資機材が

必要か考え予算化できるようしたい。プログラムを行う公園を目指すなら備品の整理が必要だろう。

嘉名委員

・事業戦略はどんな役割果たすのか。事務局だけではなく、運営会議の中でもその役割を整理する必要があるだろう。

増田委員長

・行政の役割についても検討したい。次の年度にどんな予算要求をしなければいけないのか。つくり続ける公園であれば、これまでの予算要求とは違った仕組みが求められるだろう。

下村副委員長

・事業戦略の項目としては、府の対応と予算、パーククラブのあり方、他の組織の受け入れ、等があげられる。個々の組織だけではなく、公園全体の組織づくりについても議論したい。オープン後にホストとして公園をつくる活動を行うのは、パーククラブだけなのか、他の団体も行うのか、場所ごとに活動場所を分けるのか。そのあたりを明確にしたい。また、パークフレンドの議論も残っている。このあたりに関して、今後議論を進めていきたい。

増田委員長

・7 月の運営会議では、具体的な戦略を検討するのではなく、事業戦略の役割、どのような事を検討すべきか項目をまず整理したい。

事務局

・ゾーニングに関して、1 回図面整理の時間を持ちたい。まずは机上で整理をして現場を確認したい。

増田委員長

・まず、委員長、副委員長、また前中委員にもご協力頂き、別途公園内を歩く日を設定したい。ゾーニングに関して我々で先に検討した後、運営会議で話し合ったほうがいいでしょう。夏休みの間等は調整がしやすい。委員の方にも日程をお知らせして来られる方には「現地を見る相談会」として一緒に回ってもらうのもよい。

＜報告2：大輪会の支援について＞

増田委員長

・大輪会から補足はありますか。

戸國オブザーバー

・企業として支援できることは何があるのかと考えている。今年もパーククラブの人員が増えた。今後も人が増えれば増えるほど組織運営を行う必要がある。この点については企業としてご支援できるのと思っている。

増田委員長

・パーククラブの事務局機能をどうするのか、個人に負担がいかないよう、マネジメントにご支援いただけたらと思います。資機材についても軽トラではなくキャタピラが入れるようにしたら、ものづくりもしやすいのではないかと考える。

下村副委員長

・花植えに関して、実際植えている人はだれか。花を寄付した団体が植えているのか。

事務局

・大阪府は花苗を生産、提供し、寄付先の団体が直接植えつけ又は担い手を募集している。

下村副委員長

・パークフレンドが設立できたら、彼らが植えるような仕組みを考えてもいいだろう。

＜報告3：第 4 期パークレンジャー養成講座の募集結果について＞

＜報告4：第 1～4 回パークレンジャー養成講座について＞

増田委員長

・40 名公募で 20 名の受講生。次の展開論をどう考えるべきか。引きつづき養成講座を募集するのか、一度休んで、代わりにパーククラブの中の講座を行うのか。パーククラブ内ではどう考えているのか。

杉本委員

・去年の 3 期生の中には、「やっと 3 期目にして講座を受けることができた」という方がいた。しかし、今年定員に達していないところを踏まえると、パーククラブに入会を希望する人は、すべて講座を受講したと考えるべきだと思う。

増田委員長

・現場の方がそう感じているのではあれば、新たな人材を募るのではなく、現場の結束をかためる時間に使った方がよいのではないかと考える。ただ、参加したいという人たちがでてきたらどうするかを考えておく必要がある。養成講座を 1 年間休んで、次年度はまた公募するなど。やり方は考えられる。

・これまでは 11 回の養成講座を受けなければ、パーククラブとして公園内で活動できなかった。11 回の講座を受けるというのは大変であるが、養成講座をやめてしまうと、新しい方が参加できないことになり、閉鎖的な組織になりかねない。最低 3 回の講座を受けてパーククラブと合流するとか、オリエンテーションや講習を受けてパーククラブになれるような枠があってもいい。府とも協議しながら、途中参加する方法なども検討できると思う。

佐々木委員

・パークセンターができたら、一般の人を受け入れることは可能だろう。しかし、現段階で一般の方を上限なしで受け入れることは難しい。

弘本委員

・一般の人が参加できる条件をこれから議論していく必要があるだろう。

佐々木委員

・今年度から、パーククラブもグループに分かれて活動するなど、これまでと違った形で活動している。パーククラブの組織運営をどうするのか、分岐点にきている。新たな人たちをどのように受け入れていくかについては、今後検討したい。

西台委員

・うみべの森を育てる会では常時、新規会員の受け入れを行っている。毎年、1 名ほどが、新規合流される。新規会員の方とは、どんなことをしたいかなど相談しているので、先に入られている方たちと溶け込んで活動をしている。しかし、ここはみなさん講座を受けてパーククラブとして活動されている。そのあたりをどうするかは考えないといけないだろう。

弘本委員

・講座をうけてから活動ができる、という枠組みについても検討する必要があるかと思う。

佐々木委員

・今後の会員の加入の仕方によっては会則の変更も必要となってくるだろう。現在は『講座を受けて活動に参加できる』となっている。

増田委員長

・最低限、公園の趣旨や理念を理解し、賛同できるという意思表示と、安全に関してや動植物・人に対する対応の仕方などは事前に講座等を受講して頂くなど、受け入れ態勢を熟考しなければいけない。これは重要な課題である。来年 1 年間は開園前なのでパーククラブに合流したいという人は少ないかもしれない。しかし、開園するとクラブに入りたいという人も増えるだろう。そういう方たちに関して、門戸を閉ざすわけにはいかない。

前中委員

・参加されたい方は積極的に受け入れるべきだろう。また、来年はパーククラブの中から講座等を行える方も出てくるかもしれない。そういった講座の内容も含め、今後の養成講座のあり方は検討する必要があるだろう。

増田委員長

・新しい人を受け入れる教育のあり方を考えるべきだろう。そうしないと理念が崩れる恐れがある。前中先生よりご提案頂いたように、パーククラブが授業をする仕組みも考えていく必要がある。短期の講座を開設するなど、来年度の養成講座についての検討が必要。

下村副委員長

・『花とみどりの学校』でも 4 年目に運営方法が変わった。この公園も 4 年目に入り、節目なのかもし

れない。花とみどりの学校では4年目に技術面として里山について研修を受ける機会を設けた。内部で様々な事を担ってもらえるような人を増やしていきたい。

増田委員長

・地域の方々を対象にした講習会のプログラムづくりや調査なども考えられる。パーククラブで少し検討してもらいたい。その内容を運営会議でも検討したい。

＜報告案件6：総会報告（会則の改正）ほか＞

杉本委員

・変更点として、「第6条：休会が長い人は自動的に退会」とあったが、自然退会という方法をやめた。また、資格に関しても1年更新とした。

＜報告案件5：パーククラブ活動報告（3～5月）について＞

増田委員長

・総会の資料はそれぞれでお目通しください。困っていることはありますか。

杉本委員

・現状2つの事が気になっている。1つ目は、参加率のこと。79名の組織だが、常時参加できる人数は少ない。月に1回の参加や、なかなか参加できない人がいる。参加している人と参加できない人の間で知識等の差ができたり、活動ごとに参加メンバーが違うので、前回と同じ内容を確認しないといけない。その結果、組織の中で隔たり感がある。

・もう1つは、大阪府との関係性について。我々は公園整備に意義を感じてこの活動をしている。しかし、メンバーの中には大阪府の活動や意見がわからないという声もある。大阪府との協力体制が明確ではなく、活動を共に行っているような雰囲気ではない。できれば、大阪府の方にも活動にも参加頂きたい。

増田委員長

・常時出席される方、まれに参加される方、全く参加されない方と3階層に分かれる。その点についてどうでしょう。

弘本委員

・それについてはしょうがないかなと思う。みなさんそれぞれにふさわしい仕事があることが望ましい。

杉本委員

・たまに来られる方は、来たからには率先して活動に参加していきたいが、なかなか主体的に活動してもらえない。

弘本委員

・企画等を考えて作っていくことが好きな人と、決められた事を行うことが好きな人など、得意な分野、好きな分野は人それぞれである。みなさんに適した活動が出てくるといい。

増田委員長

・西台さんはどうでしょうか。

西台委員

・うみべの森を育てる会では、みなさん積極的に参加頂いている。それぞれ得意な分野があるので、こちらで適宜、役割分担をしている。そして、１回でも活動に来てもらったら、ありがとうという気持ちを持つようにしている。

杉本委員

・今後、参加しやすい雰囲気をつくっていきたい。

増田委員長

・NPO の構成員ではないが活動に参加している人、構成員であり活動にも参加する人など、所属、公園との関わり方も検討しないといけない。年の活動の８割程度参加できる人、半分程度参加できる人、まったく来られない人。こういった線引きは必ずでてくる。パーククラブを組織化する際はより具体的に議論する必要があるだろう。

・大阪府との関係性については少し話し合う必要があると考える。パーククラブが活動している時に大阪府はどんなスタンスで関わるのか考えたほうがいい。私は、必ずしも汗を一緒に流すことが協働の在り方ではないと考えている。役割分担として、それぞれどう公園に関わり、行動をし、協働についてどう思っているのか明確化しておく必要がある。

事務局

・大阪府は、現在、土日でも職員が事務所にいることになっている。公園に関しては日直として正月以外は職員がいることになっている。事業戦略として大阪府がどのように関わり、どのような協力体制をとっていきたいか提示したい。

増田委員長

・そのあたりも含めて、事業戦略を考えたほうがいいだろう。指定管理にするのか、直営管理にするのか。土日の体制はどうするのか。今年度中に結論を出さなくてもいいが、1 年半くらいで結論を出したい。

佐々木委員

・会員の中には、私たちが行っている様々な会議に参加してもらいたい、という意見もある。会議の中には、大阪府と相談しないと話せないこともある。現在は役員が連絡調整会議を行っているが、一般会員は接点があまり無いので、大阪府がどのような考えを持っているのかわからないといった意見につながりやい。会議に参加して頂くと一緒にやっていくという感覚はつかみやすい。

下村副委員長

・NPO になると公益性を持つために、活動場所がここ以外にも他のところで活動しないといけないのではないか。

増田委員長

・主たる活動場所がここであれば大丈夫だ。

下村副委員長

・NPO 法人化など、メリットデメリット等の話をする時間をつくっていきたい。

増田委員長

・重要な視点ですので、そのあたりも事業戦略のひとつとして考えましょう。

＜協議案件２：対外視察＞

増田委員長が視察先は「有馬富士公園」でいいかと確認し、全員異議なく承認された。

＜報告案件６：地域との連携について（イオン日根野チアーズクラブ）＞

増田委員長

・大いに結構だと思う。場所貸しなのか、合同の活動なのか、チアーズクラブの環境学習をこちらで担うのか。どのようは連携ができるか整理・検討しましょう。

弘本委員

・徐々に整備が進んできていると感じた。固くなりすぎず、柔らかな景観を活かし、計画と景観がどうあるべきか配慮をして頂きたい。また、わらびがいっぱい出ていた。山菜がほしいという人のニーズにどう答えるか。今、フィールドワークで食べる草を摘むというプログラムもよく見受ける。そういったことも考えられるのではないかと思う。

＜協議案件１．現場をふまえての課題について（意見交換）＞

増田委員長

・照明計画において、生物の関係性について考えられることはあるか。

前中委員

・まず、ゾーニングを考えないといけない。照明が絶対必要な場所もある。一方で動植物生育に配慮して証明を設置しない場所もつくるべきだ。

増田委員長

・まず、夜間照明が必要なエリアと不要なエリアを考える必要があるだろう。

杉本委員

・何時まで照明をつけておくべきかも検討すべき。私の住まいの近くでは、照明が夜遅くまでついているため、夜 10 時過ぎでもセミが鳴いている。

増田委員長

・開園時間はとても重要になってくる。私が活動している堺では、都市公園だが夏と冬で開園時間を変えている。冬は 4 時閉園、夏は 5 時閉園としている。開園時間もきちんと議論しないといけない。また、リーディング区域はだれでも入れるが、その奥のコラボレーション区域は閉園するなど、いろんな分け方がある。公園管理の仕組みについてどう考えるのか検討したい。

下村副委員長

・府営公園のほとんどは駐車場が有料であるがこの公園は無料となっている。周辺環境の関係上、常時駐車される方もいないと思うが、開園後も大丈夫なのか心配である。

増田委員長

・中で農作業エリアをつくるのなら、イノシシやアライグマが入ってこない対策として柵をつくることも考える必要があるだろう。
・照明は配置計画だけではなく、デザイン性や仕組みから検証する必要がある。
・駐車場の植栽についてはどのあたりを注意すべきか。

前中委員

・駐車場はよく整備されているが、管理が大変なのではないかと思う。

佐々木委員

・芝生枯れてしまうのではないかと心配している。

増田委員長

・あの面積だと、乗用の芝刈り機が必要になるかもしれない。

前中委員

・芝生がどうゆう状態がベストと考えるか。ゴルフ場の青々したものを目指すと大変。ここの場合は芝だけではなく、沢山の草が生えている。手間のかからない方法で管理していったほうがよい。

増田委員長

・目標像をどうするのか、協議し、共有意識を持つ必要があるだろう。

下村副委員長

・駐車場へのアクセスの途中にある縦列駐車スペースは、元々の計画からあったか。

事務局
・台数を確保するために当初の計画からあった。

下村副委員長
・入口からの車の見え方はどうなのか。

事務局
・今年度、高木などの植栽を植える予定であり、雰囲気も変わってくる。したがって今ほどは車が目立つことはなのではと考えている。

増田委員長
・谷口池の西側の施設整備についてみなさんに伺いたい。この場所は人を招き入れる場所なのか、作業場所なのか。追加倉庫、資材倉庫、パーククラブの詰め所、郷の館、橋のデザインの関係性が全く違う気がする。

嘉名委員
・まずは、予算の問題が大きいのではないかと察している。ここはプログラムで使うのか。

杉本委員
・ここはバックヤードなので、パーククラブでは使わない予定である。

増田委員長
・そうはっきり分けてもいいのか。また、花苗は人を雇い、販売するなど生産所的に育てるのか。そこも考えないといけない。効率的生産を目指し仕事として花苗を育てるのか、協働活動エリアと位置づけ、プログラムの一環としての花苗を育てるのか、どちらか。

事務局
・現在、工区事務所にある花苗の生産機能をこちらに移すイメージ。したがって新たに雇用を生むイメージではない。

嘉名委員
・バックヤードという考え方もありえる。バックヤードで見てもらえるプログラムがあるかはわからないが。そのあたりの使い方を考慮すべきだ。作業するだけならいいが、見学や説明会を想定すると狭い。反対に倉庫の予定地は土地に対して余裕がある。地面の高さを変更するのは難しいが配置を変えたりすることは考えられる。プログラムとの関係性を考えて考慮すべきだろう。

事務局
・資材コスト等も考慮していかなければならないが、色や材を配慮していきたい。

嘉名委員

・既製品を使わないといけないのか。

事務局

・寄付を頂いての実施なので、寄付を頂く会社の製品を使いたいと思っている。

増田委員長

・カラーコーディネートや植栽計画についても考えないといけない。また、ご寄附頂いたから、その会社の製品を置くだけでは良くない。単純に製品を使い、投資して頂いたことが無駄にならないように考慮しないといけない。

嘉名委員

・物置だという風にとらえて隠すのであれば、植栽計画をきちんと考えないといけない。反対に見せるのであれば、建物自体の外観を考慮したい。現状はどちらともとりにくい。既存木をここに残しておくだけでもイメージが大きく変わる。

事務局

・基本的に既存木を残す計画をしている。したがって、既存木を今後伐採する予定はない。しかし、施設整備の際に重機が入れるために一部伐採や移植もありえるだろう。

増田委員長

・この公園は様々な場所でプログラムを行うと意識しておいたほうがいい。

事務局

・事業戦略のひとつとして考えていきたい。

嘉名委員

・雨の日のバックヤードツアーなどニーズはある。

増田委員長

・実生苗を補植して育てたいなどの意見は必ず出てくるであろう。そのスペースも必要になってくる。

下村副委員長

・「緑の学校」では、これまで公園のバックヤードとしてシャットアウトしていた場所もオープンにした。その中でも一般の方に入ってほしくないところは中も見通せるフェンス等を設置して緑化し、植栽を考慮した。ここでも当初は完全にバックヤードとしての機能を生み出すことになっていたが、来園者の休憩スペースや、見てもらえるような形に変更可能なら変更してもよいと思う。

西台委員

・たくさんの方が活動されているので、これだけのものができたのかな、と感じている。郷の館からの景色も前が広々として気持ちいいと思う反面、あの橋が見えるのはいかかがと思う。子どもたちに郷

の館で寝てもらい、この風を感じさせたい。

増田委員長

・バックヤードの建物のボリューム感も検討しながらゾーニングについて議論したい。

事務局

・コスト等や景観等も考慮して運営会議の中で議論したい。

下村副委員

・もし、バックヤードとしての場所とするなら、来訪者エリアからの見え方を検討する必要がある。

増田委員長

・竹林が卓越している中、どこのエリアを竹林として残すのか、樹種転換するのか検討したい。

前中委員

・よく整備されつつある。ただ、実際に開園した時は相当な利用者数が見込まれる。開園後は園路の幅等も今のままでは収容しきれない。そのあたりもどうすべきか考える必要がある。
・植栽に関しては、木が小さなうちに対処していけばいい。どの場所をどうしていくか、決めていかないといけない。また、竹はずっと手を付け続けないといけないが、慌てて手を入れすぎるときりがなくなる。そういったことも含め、ゾーニングを決めていかないといけない。

増田委員長

・小学校 1 学年、3～4 クラス、100 人から 120 人くらいの子どもたちがコラボレーション区域に一気に受け入れるのか。また、1 日 2 校受け入れるのか。広場はどのくらいの広さでいくついるのか。多様な側面からの検討が必要だろう。「堺自然ふれあいの森」は 100 人も一度に森に入れないので、プログラムを屋内、屋外、作業の 3 つに分けて学校の受け入れをし、園路整備をした。ここは広いので、みんなで回ることは可能かもしれない。プログラムを検討するためにも小学生に今年度試験的に公園に来て頂き、園路の幅等を検討することも考えられるだろう。

嘉名委員

・プログラムをすべて提供するのではなく、学校の先生が実施したいプログラムをここで実現してもらう仕組みも考えられる。どんな受け入れ方があるか、こちらの受け入れ能力から検討する必要がある。プログラムもオーダーメイドでつくられていくと面白い。公園の様子に関してはがらりと雰囲気が変わっていて驚いた。素晴らしいと思うが、これを維持するためにどうするのか。今は相当努力されており、竹と格闘して、人力が勝っているが、この状態を維持するのが大変だろう。マンパワーも必要になるし、無理してもいけない。全エリアを維持することは大変なので、どの場所を管理するのか、冷静に整理・判断する必要があるだろう。

増田委員長

・今は向井池の西半分を整備されている。東に園路を伸ばしていくことは大変ではないか。まず、西半

分に回遊できる園路をつくり、様子をみましょう。東もすべて管理すると、少し管理されすぎかなと思う。

杉本委員

・そこまではまだ考えられていない。今日歩いて頂いた場所、竹の丘周辺の整備を考えている。

嘉名委員

・池沿いのルートが重要になってくるだろう。水辺にずっとそって歩くのではなく、近寄ったり離れたり、開けるところと閉じた場所、メリハリのある風景のほうがいい。

下村副委員長

・園路整備に関して、当初竹の丘周辺は危険なので、作業しない方向だったが、パーククラブより是非やりたいという意見があって整備した。池沿いのルートの見せ方は、日本庭園のような池に近寄ったり離れたりする園路整備がいいだろうと思う。また、軽トラが入れる道、入れない道、ルート整備も考えないといけない。また、活動にも関わってくるので、竹を数年ずっと対応しないといけない場所、今は放置できる場所など、作業のしやすさや風景の目新しさ、植生の見せ方など、紹介する時の物語も考えながら検討したい。また、雨の日のプログラムはどうするか。パークセンターと郷の館でできる活動を考え、役割分担も考えたい。

増田委員長

・8 月 10 日～9 月半ばの夏休み期間中に、午後から公園の森の整備のあり方について現地で考える日を設定したい。参加いただける先生方に集まって議論したい。園路について、樹種変更の仕方、竹林の残し方などリアリティをもって議論できる。また、パーククラブの希望者も参加いただきたい。

杉本委員

・ゾーニング計画係とその他の希望者とで出席させていただきたい。

前中委員

・ササユリが非常に立派。1 本に 10 輪くらい咲きそう。可憐さがなくなるほど大きく育っている株もある。

西台委員

・うみべの森を育てる会の公園のゆりは 7～8 輪に咲く。過剰な管理はしていない。

増田委員長

・肥料を与えてなくても競合する相手を退けると立派に咲きすぎる。

前中委員

・ササユリは草の合間に少し咲いているのが本来のありかた。

佐々木委員

・自然のまま育てたい。

前中委員

・また、1 カ所に多く育つとイノシシが根を掘る。ひとつの植物だけに注目して大切に育てすぎると問題が生じることが多い。草地の一構成植物としておおらかに対応すればよい。

増田委員長

・現場でも話したが、刈る年をつくるなど、保護の方法もいろいろ計画してみてはどうか。

次回の会議日程

7 月 4 日（水）午後 1 時半　大阪府庁周辺にて